

## 第 15 回研究大会（2021 年開催）について

### i. 大会日程のご案内

運営委員会における議論を経て、第 15 回研究大会は 2021 年 6 月にオンライン大会として開催されることになりました。これは新型コロナウイルス流行の影響を極力回避し、大会開催の実現を図るとの判断に基づくものです。

議論を経て決定したシンポジウム等の内容についてご案内いたします。尚、本大会では中止となった前大会のプログラム案を基本的に引き継いでおりますが、大会のオンライン化に伴う変更点もございますのでご留意ください。

尚、オンライン大会への参加の手続き（詳細）に関しましては、2021 年 4 月以降に改めてお知らせします。また、オンライン大会では「zoom」という Web 会議用のアプリケーションソフトを使用する予定です。参加を希望される方には安定したインターネット環境のご準備をお願いします。

#### ◆日程(案)

◇1 日目（6 月 19 日）

12:00～13:00		13:30～15:35		16:00～18:00
総会／小林先生を偲ぶ会	休憩	シンポ第一部	休憩	シンポ第二部

◇2 日目（6 月 20 日）

9:30～12:05		12:30～15:05		15:30～17:30
一般研究発表第一部	休憩	一般研究発表第二部	休憩	ワークショップ

### ii. シンポジウムについて

#### ◆テーマ

人新世と AI の時代における人間と社会を問う

#### ◆パネリスト等候補

◇パネリスト

柴田邦臣「コロナ禍における障がい者の学びの危機を AI は救えるのか」(仮)

中野佳裕「人新世と AI 時代における地域と学びの再創造がもつ意味」(仮)

大倉 茂「脱成長、脱中心社会の可能性と人間の価値」(仮)

◇指定討論

佐貫 浩「AI 時代における知の変容と『合意の知』の価値」(仮)

#### ◆企画案の趣旨

2020 年 6 月に予定されていた総合人間学会シンポジウムは、コロナ感染の世界的拡大を背景とし、国内での感染拡大防止策のために延期を余儀なくされた。感染は今なおヨ

ヨーロッパ、アメリカを中心に第二波の感染爆発が進行している。世界経済はリーマンショックを超える不況となり、人々の暮らし方も激変した。一方、これを機に巨大情報産業と政府はデジタル化を一挙にすすめようとしている。このため、昨年度企画したシンポジウムのテーマの問いかけは、劇的な形でリアリティーをもつようになっていく。

一つには地質学的にも「人新世」と呼ばれるような時代認識がリアリティーをもって迫ってくる。すなわち、人間の生産活動が地球環境に与えている影響の深甚さから、ノーベル賞を受賞したドイツの大気化学者クルツェンは、地質時代の区分として産業革命以後の時代を人新世と呼ぶことを提案している。ローマクラブが「成長の限界」を出版(1972年)してからほぼ半世紀の今日、世界の人口は70億を超え、世界的な生産・消費システムの崩壊が見えてきた。長期的な地球や太陽系の運動のゆらぎのなかで、産業革命以来の機械制大工場システムが排出してきた二酸化炭素などにより、地球温暖化と異常気象が起り、今回のパンデミックも人間による環境破壊との関連が指摘されている。したがって、今までのような経済活動による成長には限界があることに気づかざるを得ない。同時に、多国籍企業による地球規模での市場開発が進み、同質の大量の消費者が生み出され、かつ格差や国際難民が増大したこと、多くの国で抑圧的で差別的な仕組みが強化されていることも日々新しい。

二つ目として、機械原理の延長上に思考のプロセスがコンピューターに実装され、人間の知的労働がAI技術によって代替されようとしている。そして、この動きは、コロナ感染の世界的拡大によって、テレワークの導入、オンライン授業への切り替えなどとして、一気に加速された。いわば、AIシステムが「社会に強制的にインストールされるような状況」が進行している。この歴史的な変化の本質は何であろうか。

これに対し、人材育成ではない教育、教育の価値そのものへの問や、利潤最大化を原理としない新しい経済システムを再創造しようとする動きも一見、ローカルで目につきにくいけれども確実に一つの潮流に成長しつつある。この中で、どのような新しい生き方や社会の在り方の可能性が生まれていて、それはどのように育ってゆこうとしているのだろうか。

このような問題意識を踏まえ、2021年大会シンポジウムは、「人新世とAIの時代における人間と社会を問う」というテーマを立て、3名のパネリスト、1名の指定討論者をまねいて開催する。参加者の皆様とともに、社会の世紀的な激動期において人間に関する総合知を照らしだす議論を深めたい。